



報道関係各位

# 全がん協加盟がん専門診療施設の診断治療症例について 10 年生存率初集計 グラフを描画する生存率解析システム KapWeb などにて公開

2016 年 1 月 20 日  
国立研究開発法人国立がん研究センター

国立研究開発法人国立がん研究センター(理事長:堀田知光、所在地:東京都中央区、略称:国がん)の研究開発費に基づく研究班「わが国におけるがん登録の整備に関する研究(班長:東尚弘)」は、全国がん(成人病)センター協議会(会長:堀田知光、以下、「全がん協」)の協力を得て、加盟施設での診断治療症例について部位別 10 年相対生存率を初集計し、全がん協ホームページで公開しました。

わが国においてこの規模でがんの 10 年相対生存率が公表されるのは初めてで、本集計により長期的ながん種別予後の傾向が示されました。

がんの生存率は、治療による効果を表す指標で、がん診療評価などにおいて重要な要素となりますが、信頼できる生存率を算出するには、精度の高い予後調査の実施などの課題があります。

同研究班では、1999 年診断症例より部位別施設別 5 年生存率を公開し、さらに 2012 年からはグラフを描画する生存率解析システム KapWeb を公開するなど、先駆的な取り組みを行い諸問題の調査、研究に取り組んでいます。

同研究班は、今回新たに部位別 10 年相対生存率を集計するとともに、これまで公開してきた部位別施設別 5 年相対生存率の最新症例についても更新しました。またこれらを生存率解析システム KapWeb へも反映させ一般公開します。

全がん協ホームページ: <http://www.zengankyo.ncc.go.jp/etc/>

## 今回の公表ポイント

- 部位別施設別 5 年相対生存率について、2004 年から 2007 年に診断治療を行った 147,354 症例を集計
- 1999 年から 2002 年に診断治療を行った 35,287 症例の 10 年相対生存率を初集計
- KapWeb でがん種、病期、治療法など様々な条件設定で検索し、5 年もしくは 10 年までの生存率年次推移をグラフでみる事が可能

## 生存率の統計について

生存率の統計には、都道府県が行う地域がん登録で 2003 年から 2005 年に診断された約 19 万症例の 5 年相対生存率と、がん診療連携拠点病院が行う院内がん登録で 2007 年に診断された約 17 万症例による 5 年相対生存率が公開されていますが、施設別のものや 10 年相対生存率については公開されていません。また、本年 2016 年 1 月より開始した全国がん登録において本年診断症例の 5 年相対生存率が公開されるのは、2022 年以降となります。

## データベース概要

### 対象施設：全国がん(成人病)センター協議会 32 加盟施設 (2016 年現在)

北海道がんセンター、青森県立中央病院、岩手県立中央病院、宮城県立がんセンター、山形県立中央病院、茨城県立中央病院、栃木県立がんセンター、群馬県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、国立がん研究センター東病院、千葉県がんセンター、国立がん研究センター中央病院、がん研有明病院、都立駒込病院、神奈川県立がんセンター、新潟県立がんセンター新潟病院、富山県立中央病院、石川県立中央病院、福井県立病院、静岡県立静岡がんセンター、愛知県がんセンター、名古屋医療センター、滋賀県立成人病センター、大阪医療センター、大阪府立成人病センター、兵庫県立がんセンター、呉医療センター・中国がんセンター、山口県立総合医療センター、四国がんセンター、九州がんセンター、佐賀県医療センター一好生館、大分県立病院

### 収集症例

1997 年から 2007 年までに全がん協加盟施設で診断治療を行った 405,226 症例

### 集計対象

5 年相対生存率:

2004 年から 2007 年に診断治療を行った症例のうち、以下の条件を満たした 147,354 症例

10 年相対生存率:

1999 年から 2002 年に診断治療を行った症例のうち、以下の条件を満たした 35,287 症例

### 基準

- ・ 5 歳未満 95 歳以上は削除
- ・ 良性腫瘍・上皮内がん・0 期・転移性腫瘍は削除
- ・ 解析対象は症例区分 2~3 (前回は 1~3)
- ・ (1: 診断のみ、2: 自施設診断自施設治療、3: 他施設診断自施設治療)
- ・ 全がん協施設別生存率公表基準を満たしたデータのみを集計
  - 臨床病期判明率 60%以上
  - 追跡率(予後判明率)90%以上
  - 症例数 50 例以上
- ・ 施設別生存率は、各施設からコメントおよび施設長の公表の同意を得てホームページへ掲載

### 相対生存率とは

生存率には、実測生存率と相対生存率があります。実測生存率とは、死因に関係なくすべての死亡を計算に含めた生存率で、この中にはがん以外の死因による死亡も含まれます。がん以外の死因で死亡する可能性に強く影響しうる要因(性、年齢など)が異なる集団で生存率を比較する場合には、がん以外の死因により死亡する確率が異なる影響を補正する必要があります。

性別、年齢分布、診断年が異なる集団において、がん患者の予後を比較するために、がん患者について計測した生存率(実測生存率)を、対象者と同じ性・年齢・分布をもつ日本人の期待生存確率で割ったものを相対生存率といいます。生存率を世界と比較する際も相対生存率が用いられます。

## 5年相対生存率

- 2004年から2007年に診断治療を行った32施設147,354症例について、全症例と手術症例の5年相対生存率を部位別および施設別に算出しました。
- 1997年から1999年の症例、1997年から2000年の症例、2001年から2003年の症例(全症例・手術症例)に続いての公開となります。

### 部位別算出

部位別臨床病期別に、全症例と手術症例の生存率および病期判明率、手術率、追跡率を算出し、一覧およびグラフで表示しています。

### 生存率算出結果の概要

全部位全臨床病期の5年相対生存率は68.8%でした。1997年の62.0%から徐々に改善している傾向がみられます。これは、化学療法、放射線治療や早期発見技術の進歩が貢献していると考えられます。

- ① 90%以上 前立腺(100%)、乳(92.9%)、甲状腺(91.6%)
- ② 70%以上 90%未満 子宮体(84.9%)、大腸(75.9%)、子宮頸(75.1%)、胃(73.1%)
- ③ 50%以上 70%未満 卵巣(61.0%)など
- ④ 30%以上 50%未満 肺(43.9%)、食道(42.3%)、肝(34.8%)など
- ⑤ 30%未満 胆のう胆道(28.9%)、膵(9.1%)など

### 施設別算出

5部位(胃、大腸、肺、乳、子宮頸)について、集計対象基準を満たした施設について全症例と手術症例の生存率および病期判明率、手術率、追跡率を算出し、一覧およびグラフで表示しています。

### 公表対象施設 30 施設

北海道がんセンター、青森県立中央病院、岩手県立中央病院、宮城県立がんセンター、山形県立中央病院、栃木県立がんセンター、群馬県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、千葉県がんセンター、国立がん研究センター東病院、がん研有明病院、東京都立駒込病院、神奈川県立がんセンター、新潟県立がんセンター新潟病院、富山県立中央病院、石川県立中央病院、福井県立病院、静岡県立静岡がんセンター、愛知県がんセンター、名古屋医療センター、滋賀県立成人病センター、大阪府立成人病センター、大阪医療センター、兵庫県立がんセンター、呉医療センター・中国がんセンター、山口県立総合医療センター、四国がんセンター、九州がんセンター、佐賀県医療センター好生館、大分県立病院

### 部位別公表対象施設数

胃 29 施設、大腸 30 施設、肺 28 施設、乳 29 施設、子宮頸 20 施設  
(前は胃 23 施設、大腸 25 施設、肺 24 施設、乳 24 施設、子宮頸 15 施設)

### 注意事項

- ① 部位により対象年が異なる場合があります。各施設の生存率の表の下部の対象年にご注意ください。
- ② 平均年齢、男女比、I期/IV期比、手術率、病期判明率、追跡率
- ③ ホームページの各施設の表には手術症例の病期別生存率も掲載しています

## 施設別生存率を比較する上で重要なポイント

- ① 臨床病期毎の症例数によって生存率は異なります。例えば、進行がんの患者さんが多ければ生存率は低くなります。そこで、I 期/IV 期比を掲載しました。生存率を見る際は病期ごとの生存率が大事です。
- ② 追跡率が低ければ生存率が高くなりますので、追跡率 90%以上を公表基準としました。
- ③ 一般に公表されている外科手術の生存率と比較できるように、手術率および手術症例の生存率を算定しました。全症例の生存率だけでなく手術症例の生存率も参考にしてください。
- ④ 臨床病期ごとの生存率であり、これまでホームページ等で一般に公表されている臓器別生存率(癌取り扱い規約によるステージ分類)とは異なります。

臨床病期	5年相対生存率(症例数)		平均年齢	66.3歳
	全症例	手術症例		
I	97.8% (391)	96.9% (252)	男女比	2.05
II	74.0% (65)	70.4% (60)		
III	51.7% (97)	55.2% (85)	I期/IV期比	1.96
IV	8.0% (199)	5.7% (44)	手術率(%)	58.5
不明	- (5)	- (2)	病期判明率(%)	99.3
全病期	66.4% (757)	77.4% (443)	追跡率(%)	99.8

施設別部位別生存率表示例

## 今後の課題

- ① がん登録がきちんと行われて初めて信頼に足る生存率が算定されます。今回の生存率算定でも追跡率が 90%未満の施設が存在しています(収集項目および精度評価のページ参照)。これは、住民票照会が有料であったり、条例で認められていない市町村があることが考えられます。
- ② 2016年1月診断症例以降は、全国がん登録制度に基づく、生存確認が行われますが、2015年12月までの症例の生存確認調査がきちんと行える体制整備が必要です。
- ③ 生存率の一覧表示はまだ問題が多く、生存率の数字のみで施設を選択するべきではありません。

## 10年相対生存率

- 10年相対生存率の算出は初めてです。
- 1999年から2002年に診断治療を行った16施設35,287症例について、全症例と手術症例の10年相対生存率を部位別に算出しました。
- データ提出施設が限られているので、施設別の算出は行っていません。

### 部位別算出

部位別臨床病期別に、全症例と手術症例の生存率および病期判明率、手術率、追跡率を算出し、一覧およびグラフで表示しています。

5年生存率と10年生存率ではデータベースが違いますのでご注意ください。

### データ提供施設(16施設)

岩手県立中央病院、山形県立中央病院、栃木県立がんセンター、群馬県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、千葉県がんセンター、がん研有明病院、新潟県立がんセンター新潟病院、福井県立病院、愛知県がんセンター、滋賀県立成人病センター、大阪医療センター、兵庫県立がんセンター、呉医療センター・中国がんセンター、大分県立病院、佐賀県医療センター好生館

### 生存率算出結果の概要

全部位全臨床病期の10年相対生存率は58.2%でした(同じデータベースの5年相対生存率は63.1%)。

#### ① 90%以上

甲状腺(90.9%)

#### ② 70%以上 90%未満

前立腺(84.4%)、子宮体(83.1%)、乳(80.4%)、子宮頸(73.6%)など

#### ③ 50%以上 70%未満

大腸(69.8%)、胃(69.0%)、腎(62.8%)、卵巣(51.7%)など

#### ④ 30%以上 50%未満

肺(33.2%)など

#### ⑤ 30%未満

食道(29.7%)、胆のう胆道(19.7%)、肝(15.3%)、膵(4.9%)など

部位		I	II	III	IV	全症例	手術症例	手術率(%)	病期判明率(%)	追跡率(%)	グラフ表示
食道 C15	症例数	312	335	402	269	1,440	598	41.5	91.5	99.2	グラフ表示
	生存率(%)	64.1	36.9	15.4	4.8	29.7	35.8				
胃 C16	症例数	3,706	519	661	1,128	6,413	4,726	73.7	93.8	99.3	グラフ表示
	生存率(%)	95.1	62.7	38.9	7.5	69.0	73.6				
結腸 C18	症例数	539	451	426	358	1,866	1,634	87.6	95.1	99.3	グラフ表示
	生存率(%)	98.6	85.2	74.8	8.7	70.6	72.0				
直腸 C19-20	症例数	365	319	328	196	1,249	1,139	91.2	96.7	99.4	グラフ表示
	生存率(%)	94.1	83.3	63.0	6.0	68.5	68.2				
大腸 C18-20 再掲1	症例数	904	770	754	554	3,115	2,773	89.0	95.7	99.3	グラフ表示
	生存率(%)	96.8	84.4	69.6	8.0	69.8	70.4				
肝 C22	症例数	388	498	426	285	1,700	463	27.2	93.9	98.9	グラフ表示
	生存率(%)	29.3	16.9	9.8	2.5	15.3	29.8				
胆嚢胆道 C23-24	症例数	85	88	66	183	562	313	55.7	75.1	98.9	グラフ表示
	生存率(%)	53.6	20.6	8.6	2.9	19.7	32.2				
膵 C25	症例数	57	99	126	513	895	334	37.3	88.8	99.7	グラフ表示
	生存率(%)	29.6	11.2	3.1	0.9	4.9	11.1				
喉頭 C32	症例数	166	114	59	58	451	169	37.5	88.0	98.7	グラフ表示
	生存率(%)	93.9	63.0	53.0	54.1	71.9	66.3				
気管、肺 C33-C34	症例数	2,117	521	1,688	1,559	6,100	2,954	48.4	96.5	98.9	グラフ表示
	生存率(%)	69.3	31.4	16.1	3.7	33.2	57.8				
乳 50	症例数	1,412	2,133	492	227	4,401	4,240	96.3	96.9	99.2	グラフ表示
	生存率(%)	93.5	85.5	53.8	15.6	80.4	82.8				
子宮頸 C53	症例数	579	216	177	100	1,116	785	70.3	96.1	98.4	グラフ表示
	生存率(%)	91.3	63.7	50.0	16.5	73.6	84.2				
子宮体 C54	症例数	500	53	121	29	743	713	96.0	94.6	98.9	グラフ表示
	生存率(%)	94.4	84.2	55.6	14.4	83.1	85.8				
卵巣 C56	症例数	134	43	118	57	372	328	88.2	94.6	99.1	グラフ表示
	生存率(%)	84.6	63.2	25.2	19.5	51.7	56.8				
前立腺 C61	症例数	71	503	306	329	1,306	511	39.1	92.6	99.0	グラフ表示
	生存率(%)	93.0	100.0	95.6	37.8	84.4	100.0				
腎・尿管 C64-66	症例数	269	88	86	175	650	532	81.8	95.1	99.8	グラフ表示
	生存率(%)	91.3	76.4	51.8	13.8	62.8	73.0				
膀胱 C67	症例数	258	103	60	46	503	473	94.0	92.8	98.7	グラフ表示
	生存率(%)	81.4	78.9	32.3	15.6	70.3	72.1				
甲状腺 C73	症例数	121	128	126	89	505	476	94.3	91.9	99.2	グラフ表示
	生存率(%)	100.0	100.0	94.2	52.8	90.9	93.6				



KapWeb は、がん種、病期、性別、年齢、初回治療など様々な組み合わせで5年相対生存率をみる事ができるデータベースで、2012年10月より一般公開しています。

全がん協加盟施設の生存率共同調査

## 全がん協生存率

KapWeb HOME

English 英語 Japanese 日本語

[戻る](#) [かんたんデータ画面](#)

診断年  -  [最新1年](#) [最新3年](#) [最新5年](#)

集計に必要な最低症例数に達しない場合、最新1年→最新3年→最新5年→xxxx年→xxxx年の項目に全期間を入力して症例数を増やして下さい。  
またxxxx年→xxxx年の項目は開始年→最終年の順に入れて下さい。逆では集計が行われません。

部位  臨床病期  年齢  性別

手術  全症例  外科的  体腔鏡的（腹腔鏡、胸腔鏡）  内視鏡的（ポリプ切除など）  手術なし

治療法で絞り込む  放射線治療  化学療法  免疫・BRM療法  内分泌療法

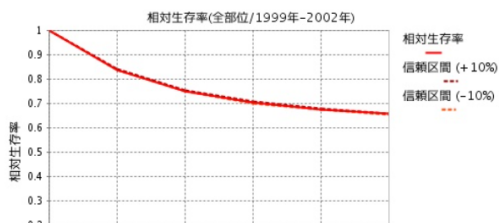
がんサバイバー生存率は下記の条件で5年生存率から計算出来ます。  
たとえば診断から300日生存したがん患者さんの生存率を調べる場合、データの中から300日以上生存した患者さんを選んで100%として生存率を計算し、結果を「300日サバイバー(生存者)生存率」と呼びます。  
サバイバー生存率を入れると表示される年数は5年よりも短くなります。

診断から現在までの生存日数  日

生存率  5年生存率  10年生存率

10年生存率を選択する際は、診断年を1998年から2002年の間になるように選択してください。診断年2003以後を選択すると10年生存率は計算できません。

[クリア](#) [計算](#)



症例数:79071件  
データ提供施設:  
北海道がんセンター、青森県立中央病院、岩手県立中央病院、宮城県立がんセンター、山形県立中央病院、茨城県立中央病院、栃木県立がんセンター、群馬県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、千葉県がんセンター、国立がん研究センター東病院、国立がん研究センター中央病院、がん研究会有明病院、東京都立駒込病院、神奈川県立がんセンター、新潟県立がんセンター、新潟病院、石川県立中央病院、福井県立病院、愛知県がんセンター中央病院、名古屋医療センター、滋賀

### 主な機能

- 各種の条件で絞込が可能な生存率解析システム
- 条件設定により生存率を算出  
生存率の年次推移をグラフと数値一覧表でみる事ができます。
- がんサバイバー生存率の算出  
治療開始から一定期間生存した患者さんの生存率を集計（長く生存した患者さんほどその後の生存率の改善をみる事ができます。）
- 英語表示

### 今回の主な更新内容

- 新規診断症例の追加
- 機能追加
  - 5年相対生存率に加え、10年相対生存率を表示できるようになりました
  - 治療法の選択項目を追加  
外科治療に加え、放射線治療、化学療法、免疫・BRM療法、内分泌療法を追加

## 活用方法

- 患者さんの治療選択の参考情報
- 引き続き再発に注意が必要か、再発の多い時期を乗り切ったのかなど見通しを得る

## データ提供への配慮

がん告知の直後など受容のための心の準備が整わない時期にある患者さんや、生存率についての情報を望まない方のために、説明と統計ページ回避画面を用意しています。

## 検索項目(\*下線は新規追加項目)

- 部位 全 28 種(一部重複あり)  
全部位、口唇・口腔・咽頭、舌、中咽頭、上咽頭、下咽頭、食道、胃、大腸(結腸・直腸)、結腸、直腸、肝、胆のう・胆管、膵臓、咽頭、肺(気管を含む)、骨、悪性黒色腫、皮膚、中皮腫、乳房、子宮、子宮頸部、子宮体部、卵巣、前立腺、腎・尿路(膀胱を除く)、膀胱、甲状腺
- 臨床病期
- 年齢
- 性別
- 手術(全症例、外科的、体腔鏡的(腹腔鏡、胸腔鏡)、内視鏡的(ポリープ切除など)、手術なし)
- 治療法(放射線治療、化学療法、免疫・BRM 療法、内分泌療法)
- 生存率(5 年生存率、10 年生存率)

## 5 年相対生存率の年次経緯(単年度ごとの集計)

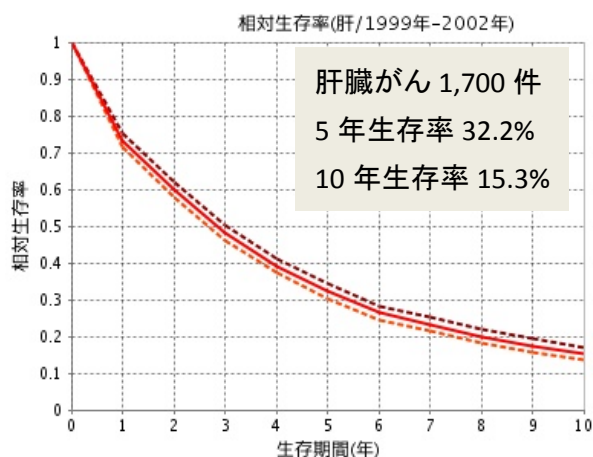
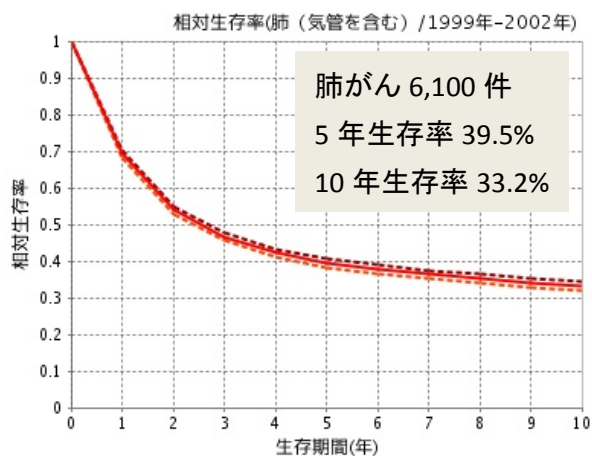
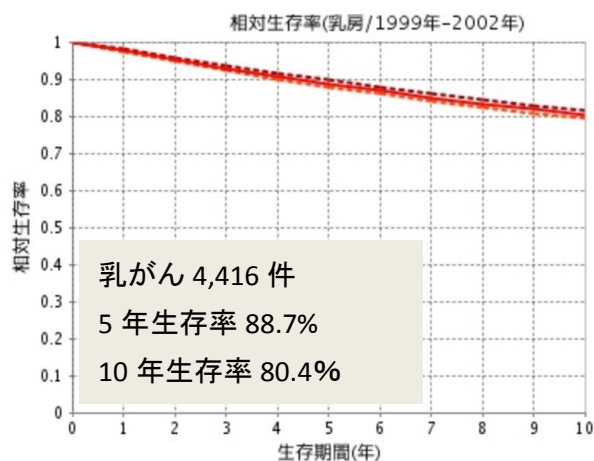
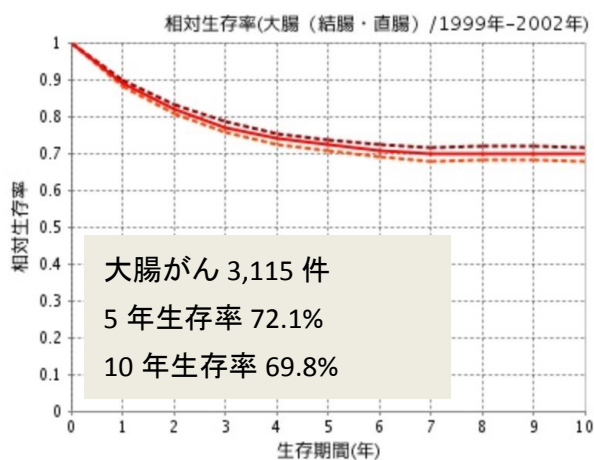
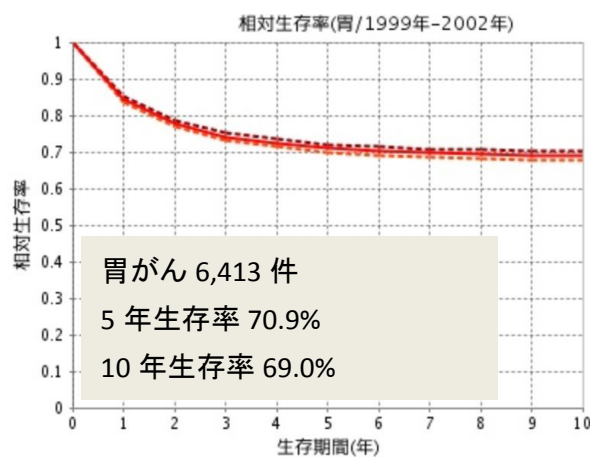
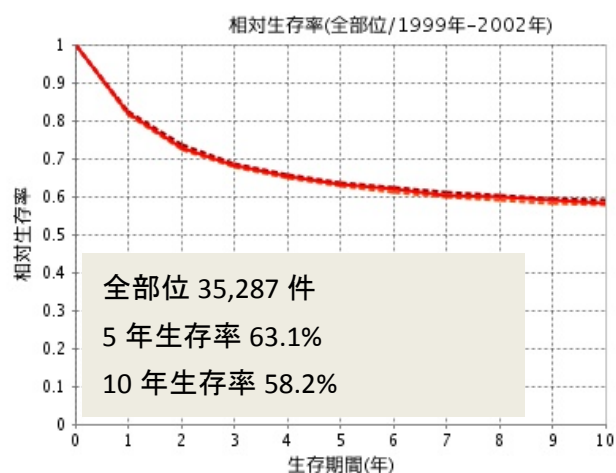
診断年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
胃	70.6	72.3	71.2	73.4	72.0	70.0	73.4	72.7	71.2	73.4	74.4
大腸	67.1	74.8	72.3	77.1	74.9	71.0	74.8	74.9	76.3	76.3	75.6
肝臓	28.1	29.5	33.5	35.9	36.7	32.0	34.4	34.7	32.2	37.0	35.2
肺	35.3	35.1	38.6	42.0	39.5	39.2	42.3	42.4	42.7	46.9	44.2
乳房	85.2	86.9	87.3	89.6	91.2	90.8	91.2	92.3	93.0	92.9	93.2
子宮	79.1	77.6	78.9	74.4	79.7	79.9	81.0	79.3	78.3	81.0	79.5
前立腺	70.6	90.8	82.1	94.6	93.7	92.4	100.0	100.0	98.9	100.0	100.0
全部位	62.0	64.0	63.0	66.7	66.6	66.5	66.9	67.7	68.7	69.6	68.9

単位(%)

## 10年相対生存率の表示について

KapWebでは、1998年から2002年までの10年相対生存率を調べることが可能です。しかし、プレスリリースにおいては、部位別一覧(P5)と数値を合わせるため1999年から2002年までの10年相対生存率でご説明しています。どちらで表示いただいても間違いではありませんが、対象症例件数や生存率が異なりますのでご注意ください。

以下は、1999年から2002年診断治療症例の部位別生存率です。





## 報道関係からのお問い合わせ先

- 部位別施設別生存率について

群馬県衛生環境研究所 TEL:027-232-4881 E-Mail: saruki @ gunma-cc.jp

猿木信裕(がん研究開発費研究班分担研究者)

- KapWeb について

千葉県がんセンター研究所がん予防センター(疫学研究部)三上春夫(がん研究開発費研究班小班)

事務局:永瀬浩喜、高山喜美子、中村洋子

TEL:043-264-5431(代表) E-Mail: hmikami@chiba-cc.jp

- その他全般について

国立研究開発法人 国立がん研究センター 企画戦略局 広報企画室

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL:03-3542-2511(代表)FAX:03-3542-2545 E-mail:ncc-admin@ncc.go.jp